

差シ押フルヲ得又警察官ニ委任シ
テ臨檢セシムルヲ得

第八條 若シ罪犯窩藏ノ家己ノ管外ニ
在ルキハ其地ノ糾問判事ニ通牒シテ
前條ノ處分ヲ求ムルヲ得

第九條 糾問判事ハ輕重罪ヲ論セス被
告人ヲ呼出シ若クハ拘引セシメ又拘
留スルヲ得

但シ拘引ハ巡查若クハ等外吏ヲシ

テ之ヲ行ハシム

第十條 糾問判事ハ糾問ノ間時宜ニ依
リ假ニ拘留ヲ解クヲ得

但シ保管人ヲシテ保管誓約書ヲ出
サシムルヲ要ス

第十一條 若シ被告人己レノ管外ニ在
ルキハ其地ノ糾問判事ニ通牒シ糾問
ヲ求ムルヲ得

第四章 証人問供

糾問判事

第十二條 糾問判事ハ罪犯ノ証人ヲ呼
出スヲ得若シ証人已レノ管外ニ在
ルキハ第十一條ノ規則ニ從フ

第十三條 証人ハ各人隔別ニ問訊シテ
逐節口書ヲ錄シ口書成テ之ヲ讀聞カ
セ証人甘結スレハ花押若シクハ實印
若クハ拇印セシム而シ糾問判事紙尾
ニ署名捺印スヘシ

第十四條 口書ニハ字句ヲ改竄塗抹シ

及ヒ追書スルヲ許サス若シ插入塗
抹追書スル者ハ必ス本証人ノ認印ヲ
要スヘシ

第十五條 証人若シ疾病事故アリテ呼
出ニ從ヒ出頭スルヲ能ハサルニ於テ
ハ屬官ヲ引キ其家ニ臨ミ問訊シ或ハ
警察官ニ委任シテ問訊セシムルヲ得

第十六條 証人ノ疾病事故其實ニ非ル

トテ發見スルキハ引致シテ問訊シ病
故不實ノ件ハ之ヲ檢事ニ付スヘシ

第五章 糺問濟

第十七條 糺問判事糺問終リ被告入違
警罪ニ止マリ或ハ無罪ナリト見込キ
ハ檢事ニ通知シ而後之ヲ警察官ニ移
シ或ハ之ヲ放免スヘシ

第十八條 被告人輕重罪アリト見込ム
キハ即チ証憑文書ヲ具シテ檢事ニ還

付スヘシ

但シ被告人輕罪ニ止マルト見込ム
キハ第十條ニ照シテ處分スルヲ得

第二百二十條

明治十年五月十一日司法省丙第十號ヲ以
大審院上等裁判所地方裁判所府縣へ達

糺問判事職務仮規則第五章第十七條放免
ノ二字ハ釋放ト相改メ候條此旨相達候事
第十一章 大審院

第二百廿一條

明治十年二月十九日
太政官第十九號布告

明治八年五月第九拾一號布告大審院諸裁判

所職制章程同年同第九拾三號布告控訴上

告手續別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但巡廻裁判規則判事職制通則ハ刪除候

事(控訴上告規則ハ訴訟ノ部刑事上告規

則ハ治罪ノ部へ掲之)

大審院職制

長 一人

(一等)判事ヲ以テ之ニ充シ

院長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨

ニ民事事件ヲ聽理スルヲ掌ル

判事

第一 民事刑事ノ上告ヲ判理シ裁判

ノ不法ナル者ヲ破毀シ及ヒ内外交

渉ノ事件重大ナルモノ並ニ判事ノ

犯罪ヲ審判スルヲ掌ル

大審院

第二 死罪ノ案ヲ審閲スルヲ掌ル
屬

大審院章程

第一條

大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判
所以下ノ審判ノ不法ナル者ヲ破毀シテ法
憲ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條

審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後佗ノ裁

判所ニ移シテ之ヲ判決セシム又便宜ニ大
審院自ラ之ヲ判決スルヲ得

第三條

已ニ佗ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシム
ルノ後其裁判所亦大審院ノ旨ニ循ハサル
時ハ大審院更ニ自ラ之ヲ判決ス

第四條

陸海軍裁判所ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其
裁判ヲ破毀シテ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス

大審院

第五條

各判事ノ犯罪其違警犯ヲ除クノ外大審院
之ヲ審判ス

第六條

内外交渉民刑事事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

第七條

各上等裁判所ヨリ送呈スル所ノ死罪案ヲ
審閱シ批可シテ送還ス其否トスルモノハ
更ニ律ヲ擬シテ還付ス

第二百廿二條

明治八年五月九日太
政官第八十號布告

大審院當分ノ内元明法寮跡へ被置候條此
旨布告候事

第二百廿三條

明治八年四月十四日太
政官第五十九號布告

大審院被置候事

第二百廿四條

明治八年七月十四日太政官第百
二十三號ヲ以院省使廳府縣へ達

大審院

大審院順次ノ儀ハ開拓使ノ上諸省ノ次ニ
被列候條此旨相達候事

第二百廿五條

明治十年六月二十八日太政官
第四十七號官院省使府縣ニ達

大審院諸裁判所大中少屬被廢更ニ左ノ通
官等級被定候條此旨相達候事

- 一等屬 八 等月俸 六十圓
- 二等屬 九 等全 五十圓
- 三等屬 十 等全 四十五圓

- 四等屬 十一等全 四十圓
- 五等屬 十二等全 三十五圓
- 六等屬 十三等全 三十圓
- 七等屬 十四等全 二十五圓
- 八等屬 十五等全 二十圓
- 九等屬 十六等全 十五圓
- 十等屬 十七等全 十二圓

第二百廿六條

明治八年九月九日司法省第廿
四號ヲ以各裁判所各府縣ニ達

大審院

(大審院章程第九條ノ儀ハ上告ヲ受ケタル
上之レヲ破毀シ法律ノ疑條ヲ辨明シテ他
ノ裁判所ヘ示スヲ言フモノニシテ法律
ノ伺ヲ解明スルトハ全ク別ナリトス依テ
法律ノ條件ニ付テ解シ難キ儀有之ニ於テ
ハ當省ヘ可伺出候條此旨相違候事)

第一款 上等裁判所

第二百廿七條

明治十年二月十九日
太政官第十九號布告

上等裁判所職制

長 一人

勅任判事ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ隨時各庭ニ臨

ニ民事事件ヲ聽理スルヲ掌ル

判事

第一 管内ノ控訴ヲ受ケ之ヲ覆審スルヲ

掌ル

第二 管内死罪ノ獄ヲ判決スルヲ掌ル

上等裁判所

判事補

事ヲ判事ニ受ケ審判スルヲ掌ル
屬

上等裁判所章程

第一條

上等裁判所ハ地方裁判所ノ裁判ニ服セス
シテ控訴スル者ヲ覆審ス

第二條

各地方裁判所ヨリ具スル所ノ死罪ヲ判決

シテ大審院ノ批可ヲ取り然ル後原裁判所
ニ付シテ宣告セシム

第三條

各地方裁判所ヨリ送呈スル所ノ終身懲役
罪案ヲ審批ス

第二百廿八條

明治八年九月十三日太
政官第百十五號布達
今般府縣裁判所ヲ改メ地方裁判所ヲ置候
ニ付各上等裁判所分轄左ノ通相定候條此

上等裁判所

旨布告候事

東京上等裁判所

東京裁判所

橡木裁判所

愛知裁判所

新潟裁判所

大坂上等裁判所

京都裁判所

神戸裁判所

横濱裁判所

浦和裁判所

静岡裁判所

松本裁判所

大坂裁判所

金澤裁判所

松山裁判所

松江裁判所

宮城上等裁判所

青森裁判所

米澤裁判所

長崎上等裁判所

長崎裁判所

鹿島裁判所

高知裁判所

岩國裁判所

一ノ關裁判所

函館裁判所

熊本裁判所

第二百廿九條

上等裁判所

明治八年五月廿四日太
政官第九十二號布告

今般東京太坂長崎福島四ヶ所へ上等裁判
所ヲ被置分轄左之通被定候條此旨布告候
事

東京上等裁判所

東京府

神奈川縣

埼玉縣

千葉縣

上等裁判所

足柄縣

茨城縣

熊谷縣

椽木縣

山梨縣

静岡縣

濱松縣

愛知縣

岐阜縣

長野縣

築摩縣

新潟縣

相川縣

新川縣

大坂上等裁判所

大坂府

京都府

敦賀縣

滋賀縣

石川縣

三重縣

度會縣

奈良縣

和歌山縣

堺縣

兵庫縣

飾磨縣

上等裁判所

岡山縣
北條縣
鳥取縣
豐岡縣
名東縣
高知縣
愛媛縣
小田縣
島根縣

濱田縣
廣島縣
山口縣
福島上等裁判所

福島縣
磐前縣
若松縣
置賜縣
水澤縣

上等裁判所

酒田縣

山形縣

宮城縣

岩手縣

秋田縣

青森縣

北海道但函館裁判所管轄內

長崎上等裁判所

長崎縣

小倉縣

福岡縣

佐賀縣

大分縣

三潯縣

白川縣

宮崎縣

鹿島縣

第二百三十條

上等裁判所

明治八年六月廿七日
司法省甲第十號布達

長崎上等裁判所ハ本月廿八日福嶋上等裁判所ハ來ル七月二日ヲ以開廳事務取扱候條此旨布達候事

第二百卅一條

明治八年八月十二日太
政官第百二十七號布告

福島上等裁判所宮城ニ被移候條此旨布告候事
但管轄ノ儀ハ従前ノ通

第二百卅二條

明治八年六月廿八日司
法省甲第十一號布達

大阪上等裁判所來ル八月二日開廳事務取扱候條此旨布達候事

第二款 地方裁判所

第二百卅三條

明治十年二月十九日
太政官第十九號布告
地方裁判所職制

長 一人

奏任判事ヲ以テ之ニ充ツ

地方裁判所

所長ハ課ヲ分チ主任ヲ命スルヲ掌ル他
ハ判事ニ同シ

判事

民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スルヲ
掌ル

判事補

事ヲ刑事ニ受ケ審判スルヲ掌ル
屬

地方裁判所章程

第一條

地方裁判所ハ一切ノ民事及刑事懲役以下
ヲ審判ス

第二條

地方裁判所ニ於テ審判シタル民事ハ輕重
トナシ皆初審トス

第三條

民刑事ノ内外ニ交渉シタル者ハ其輕キハ
直ニ之ヲ裁決シ其ノ重キハ一面之ヲ聽理

地方裁判所

シ一面之ヲ司法卿ニ具申スヘシ

第四條

死罪ハ審訊シテ文案証憑及ヒ擬律案ヲ具
ヘ上等裁判所ニ遞送シ其行下ヲ得テ宣告
ス

第五條

終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ
審批ヲ取り然ル後ニ宣告ス

(控訴上告手續ハ載テ「訴訟法類纂」ニアリ

此所ニ略ス)

第二百卅四條

明治九年一月十七日司法省第九號
ヲ以大審院各裁判所各府縣ヘ達

府縣裁判所判事長等級自五等至七等ノ六
字被取消候旨今般御達相成候條爲心得此
旨相達候事

第二百卅五條

明治九年九月十三日太
政官第四百十四號布告
今般府縣裁判所ヲ改メ地方裁判所ヲ置キ

地方裁判所

分轄左ノ通被定候條此旨布告候事

東京裁判所

東京府 千葉縣

京都裁判所

京都府 滋賀縣

大坂裁判所

大坂府 堺縣 和歌山縣

橫濱裁判所

神奈川縣

箱館裁判所

北海道 從前管轄内

神戸裁判所

兵庫縣 岡山縣

新潟裁判所

新潟縣

長崎裁判所

長崎縣 福岡縣

榎木裁判所

地方裁判所

橡木縣 茨城縣

浦和裁判所

群馬縣 埼玉縣

青森裁判所

青森縣 秋田縣

一ノ關裁判所

岩手縣 宮城縣

米澤裁判所

山形縣 福島縣

静岡裁判所

静岡縣 山梨縣

松本裁判所

長野縣 岐阜縣

金澤裁判所

石川縣

名古屋裁判所

愛知縣 三重縣

松江裁判所

地方裁判所

島根縣

松山裁判所

愛媛縣

高知裁判所

高知縣

岩國裁判所

山口縣

廣島縣

熊本裁判所

熊本縣

大分縣

鹿島裁判所

鹿島縣

第二百三十六條

明治八年十二月十三日太
政官第九十三號布告

今般鹿兒島山口高知三縣へ裁判所被置候
條此旨布告候事

第二百三十七條

明治九年三月二日太
政官第二十六號布告

今般宮城縣へ裁判所被置候條此旨布告候

地方裁判所

事

第二百三十八條

明治九年三月九日太
政官第二十八號布告

今般鶴ヶ岡縣へ裁判所被置候條此旨布告
候事

第二百三十九條

明治九年五月三日太
政官第六十二號布告

今般足柄佐賀兩裁判所ヲ廢シ愛知三瀦兩
縣へ裁判所被置候條此旨布告候事

第二百四十條

明治九年十月十七日太
政官第八十四號布告

椽木裁判所ヲ茨城ニ移シ水戸裁判所ト稱
シ候條此旨布告候事

第二百四十一條

明治九年十一月八日太
政官第百卅八號布告

岩國裁判所ヲ廣島ニ移シ廣島裁判所ト稱
シ浦和裁判所ヲ熊谷ニ移シ熊谷裁判所ト
稱シ候條此旨布告候事

地方裁判所

第二百四十二條

明治九年十一月廿四日太
政官第四百十五號布告

一ノ關裁判所ヲ仙臺ニ移シ仙臺裁判所ト
稱シ候條此旨布告候事

第二百四十三條

明治九年十二月七日太
政官第四百五十號布告

米澤裁判所ヲ福島ニ移シ福島裁判所ト稱
シ候條此旨布告候事

第二百四十四條

明治十年三月二十九
日太政官第卅五號達

青森裁判所ヲ弘前ニ移シ弘前裁判所ト稱
シ候條此旨布告候事

第二百四十五條

明治十年三月二十二日
太政官第三十三號達

静岡縣管轄伊豆國附屬七島裁判事務自今
東京裁判所ニ被屬候條此旨布告候事

第二百四十六條

明治八年六月廿八日司法省第十
六號ヲ以各裁判所各府縣ニ達

地方裁判所

今般新潟裁判所被置候 = 付本月廿二日
開廳事務取扱候條為心得此旨相達候事

第二百四十七條

明治九年三月廿七日達第三十
五號ヲ以各裁判所各府縣へ達

今般山口裁判所ヲ被置候 = 付テハ本月廿
九日開廳事務取扱候條此旨為心得相達候
事

第二百四十八條

明治九年四月廿二日司法省第四十六號ヲ
以大審院上等裁判所府縣裁判所府縣へ達

今般鹿兒嶋裁判所被置候 = 付本月十七日
開廳事務取扱候條為心得此旨相達候事

第二百四十九條

明治九年四月十四日司法省達第四十二號
ヲ以大審院上等裁判所府縣裁判所へ達

今般高知裁判所被置候 = 付本月十日開廳
事務取扱候條此旨為心得相達候事

第二百五十條

明治九年五月十九日司法省第五十二
號ヲ以大審院各裁判所各府縣へ達
今般宮城裁判所被置候 = 付本月十日開廳

地方裁判所

事務取扱候條爲心得此旨相達候事

第二百五十一條

明治九年六月廿二日司法省第五十七號ヲ以大審院各裁判所各府縣へ達

今般鶴岡裁判所被置候ニ付本月十三日ヨ

リ開廳事務取扱候條爲心得此旨相達候事

第二百五十二條

明治九年七月五日司法省第六十一號ヲ以大審院各裁判所各府縣へ達

今般愛知裁判所被置候ニ付本月三日ヨリ

開廳事務取扱候條爲心得此旨相達候事

第二百五十三條

明治九年十一月十八日司法省第七十八號ヲ以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達

本月十三日名古屋裁判所開廳候條爲心得

此旨相達候事

第二百五十四條

明治九年十月十七日司法省第六十九號ヲ以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達

本月九日浦和裁判所開廳候條爲心得此旨

相達候事

第二百五十五條

地方裁判所

明治九年十月卅一日司法省第七十三號ヲ以
大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達

本月三十日神戸裁判所開廳候條爲心得此
旨相達候事

第二百五十六條

明治九年十月卅一日司法省第七十四號ヲ以
大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
來ル十一月一日水戸裁判所開廳候條爲心

得此旨相達候事

第二百五十七條

明治九年十一月十五日司法省第七十五號ヲ
以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達

本月十日静岡裁判所開廳候條爲心得此旨

相達候事

第二百五十八條

明治九年十一月廿二日司法省第七十九號ヲ
以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
熊本裁判所本月廿二日開廳候條此旨相達

候事

第二百五十九條

明治九年十一月廿八日司法省第八十三號ヲ
以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
來ル十二月一日松本裁判所開廳候條爲心

地方裁判所

得此旨相達候事

第三百六十條

明治九年十一月廿九日司法省第八十四號ヲ以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
本月二十八日松江裁判所開廳候條為心得
此旨相達候事

第二百六十一條

明治九年十二月二日司法省第八十五號ヲ以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
去十一月三十日青森裁判所開廳候條為心得
得此旨相達候事

第二百六十二條

明治九年十二月五日司法省第八十六號ヲ以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
本月一日松江裁判所開廳候條為心得此旨
相達候事

第二百六十三條

明治九年十二月五日司法省第八十七號ヲ以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
去十一月三十日金澤裁判所開廳候條為心得
得此旨相達候事

第二百六十四條

地方裁判所

明治九年十二月十二日司法省第八十八號ヲ
以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
本月九日仙臺裁判所開廳候條爲心得此旨
相達候事

第二百六十五條

明治九年十二月十四日司法省第八十九號ヲ
以大審院上等裁判所地方裁判所廳府縣へ達
本月二十日福島裁判所開廳候條爲心得此
旨相達候事

第二百六十六條

明治十年六月七日司法省第十一號ヲ以
大審院上等裁判所地方裁判所府縣へ達

廣島裁判所ノ儀是迄山口出張所ニ於テ事
務取扱來候處本月十一日開廳候條爲心得
此旨相達候事

第三款 區裁判所

第二百六十七條

明治九年九月八日司法
省番外ヲ以東京府へ達
今般當府第二大區四小區巴町三十四番地
第三大區四小區富士見町六丁目壹番地第
五大區三小區二長町二番地へ東京裁判所

區裁判所

支廳設置候ニ付勸解並ニ裁判ヲ乞候者ハ別紙假規則ニ照准シ願出ヘク候此旨布達候事

但開廳ノ儀ハ遅テ可相達候事

東京裁判所支廳管轄區分并取扱假規則

- 第一條 第一第二第七大區ハ巴町支廳第三第四第八第九大區ハ富士見町支廳第五第十第十一大區ハ二長町支廳ヘ訴ヘ出ツヘク

第二條 民事ノ訴訟ハ金額十圓以下ナリ

トス

第三條 刑事ノ訴訟ハ懲役三十日以下ナ

リトス

但シ他管甲ヨリ本管乙ニ掛ル詞訟モ亦本條ニ準ス

第四條 民事ノ訴訟ニ於テ控訴セント欲スル者ハ本年太政官布告第九十三號ニ照准シ東京上等裁判所ヘ控訴スヘシ

區裁判所

第五條 刑事ノ裁判ニ於テ上告セント欲
スル者ハ本年太政官布告第九十三號ニ
照準シテ上告スヘシ

第六條 凡民事ニ係ル詞訟ハ金額ノ多少
事ノ輕重ニカ、ハラス詞訟人ノ情願ニ
任セ支廳ニ於テ勸解スヘシ

第七條 勸解ヲ乞フ者ハ訴狀ヲ作ルニ及
ハス直ニ證據書類ヲ携ヒ該廳ニ願出ヘ
シ

第二百六十八條

明治九年十月十二日司法省第
六十七號ヲ以テ地方裁判所ニ達

支廳并區裁判所稱呼ノ儀ハ總テ其地名ヲ

冠シ(何裁判所何名)地(支廳)ト相稱可申此旨相

達候事

第二百六十九條

明治八年十二月十三日司
法省番外ヲ以テ東京府ニ達

先般府下三ヶ所ニ東京裁判所支廳設置候
旨及布達置候處今又二ヶ所舊東京裁判所

區裁判所

跡ニ増置候條勸解並裁判ヲ乞候者ハ從前
布達仮規則第二條以下ニ照準シ可願出此
旨布達候事

但管轄區分及ヒ名稱改定等ノ儀ハ其筋
ヨリ可相達候事

第二百七十條

明治八年十二月廿日司法
省番外ヲ以東京府へ達

先般及布達候東京裁判所支廳管轄區分並
取扱假規則第七條左ノ通改正候條此旨布

達候事

勸解ヲ乞フ者ハ訴狀ヲ作ルニ及ハス直
チニ該廳へ願出其事由ヲ陳述スルヲ得
ヘシ

第二百七十一條

明治八年九月八日司法省
番外ヲ以東京裁判所へ達

其裁判所支廳設置ノ儀別紙ノ通り及布達
候條此旨相心得取扱可申事

(別紙畧ス)

區裁判所

第二百七十二條

明治八年十二月十三日司法
省番外ヲ以東京裁判所へ達

其裁判所支廳増置ノ儀別紙ノ通及布達候
條此旨相心得取扱可申候事

(別紙ハ前出ニ付略ス)

第二百七十三條

明治八年十二月廿八日司法省第
十五號ヲ以各府縣裁判所へ達

其裁判所管内ニ於テ支廳有之向ハ別紙假
規則ニ照シ事務可取扱未タ支廳不撤置向

ハ設置ノ見込取調可申立候條此旨相達候
事

但右假規則管内へ施行ノ節ハ現今々後
共本廳ヨリ一般布達可致事

裁判支廳假規則

第一條

裁判支廳ハ土地ノ便宜ニ隨ヒ其區ヲ畫シ
之ヲ置クヘシ必シモ其數ヲ限ラヌ

但本廳所在ノ地ハ別ニ支廳ヲ置モ又ハ

區裁判所

本廳内ニ於テ一庭ヲ設ケ若クハ日時ヲ分チ本廳ヲ用ヒ支廳ノ務ヲ行ハシムルモ皆其便宜ニ隨フヘシ

第二條

民事ハ金額百圓ヲ以テ極ト爲ス百圓以下ハ該地方ノ便宜ニ隨ヒ其程限ヲ定ムルヲ得ヘシ

第三條

刑事ハ懲役三十日以下ト爲ス四十日以上

百日以下ニ係ルハ其罪迹明白ナル者ハ便宜處分シ明白ナラサル者ハ審案ヲ具シテ本廳所長ノ決ヲ取ル可シ

第四條

民事ニ於テ控訴スル者ハ本年第九十三號布告ニ照シ直チニ上等裁判所ニ出サシムヘシ

第五條

刑事ニ於テ上告スル者ハ本年第九十三號布告ニ照シ直チニ大審院ニ出サシムヘシ

區裁判所

第六條

凡ソ民事ニ係ルモノハ金額ノ多少事ノ輕重ニ拘ハラヌ訴訟人ノ情願ニ任セ之ヲ勸解スヘシ

但勸解ハ必シモ定規ニ拘ハラサル者ト
ス

第七條

勸解ヲ乞フ者ハ訴狀ヲ作ルニ及ハス直チニ該廳ニ願出テ其事由ヲ陳述スルヲ得ヘ

シ

第八條

勸解ヲ乞フ者ハ必ス本人自カラ出頭ス可シ但疾病事故等ニテ已チ得サルキハ其代人トシテ親戚ヲ出スヘシ

別紙添翰

今般第十五號ヲ以裁判所支廳假規則被相達附テハ東京裁判所ニ於テ現場取扱居候勸解手續概略別紙ノ通ニ候條御心得迄送

區裁判所

付致候此段申入候也

明治八年十二月廿八日 司法大丞

各通 府縣裁判所宛

追テ別紙東京裁判所伺へ御指令是又爲

御心得差添候也

勸解手續概略

第一條 凡ソ勸解ヲ乞フ原告者ハ第一號

書式ノ如キ名刺ヲ訴所ニ進達セシム

第二條 訴所詰名刺ヲ收メ第一號書式ノ

如ク番號ヲ朱書シ屬ニ出シ原告人ハ直ニ勸解席ニ至ラシム

第三條 屬ハ其名刺ヲ受取り第二號書式

ノ如ク請取録ニ記載シ順次判事補ニ分

賦ス

第四條 掛リ判事補之ヲ受取り直ニ名刺

ヲ携へ勸解席ニ捲ニ原告人ヲシテ願意

ヲ陳述セシメ直ニ召喚狀ヲ下附ス

但シ証據アル物ハ檢閲印ヲ押ス

一 召喚ノ期ハ三日ヲ不可過

第五條 期日至リ原被出頭ヲ届出レハ直ニ勸解席ニ至ラシメ而シテ掛リ判事補ニ申通スレハ掛リハ直ニ席ニ蒞ム

第六條 勸解ニ服シタル節ハ双方連印ノ日延書或ハ願下紙面ヲ出スヘキ旨ヲ命ス第七條 願下ヲ爲スキハ紙面檢印ノ上名刺ヲ朱抹シ屬ニ附ス屬請取録ヲ朱抹シ編冊ニ入ル

第八條 若シ勸解ニ服セサル者アレハ名刺ヘ勸解不調ト朱書シ屬ニ通ス屬請取録ニ調印スルヲ書式ノ如シ

第九條 若シ原被同行出頭シテ勸解ヲ乞フ者アルモ亦妨ケナシトス

第十條 勸解中財産分配ヲ以テ濟方致度旨申出ルキハ各債主ヘ示談ノ上分配スヘキ旨原被連印ノ紙面ヲ徴シテ一件落着トス

勸解願名刺ノ書式

但シ半紙ニツ折ヲ用ユ

第

勸解何年何號

何所何番地

長

掛

身分

原告人

姓名印

何々勸解ノ願

何町何番地

年月日

身分

被告人

姓名

號

一

原告代人ナレハ書式左ノ如シテ別ニ代言
届チ徴スルコ及ハス

何町何番地

身分

原告人

姓名印

代人

何町何番地

身分

姓名印

何々勸解ノ願

年月日

何町何番地

身分

被告人

姓名

區裁判所

請取錄書式並濟口朱抹ノ式
但シ勸解不調ノキハ其印ヲ捺ス

第 二 號

番號	何町何番地
掛リ姓	身分
原告	姓名
被告	姓名
勸解不調	
月日濟	何町何番地
	身分

第 三 號

○掛印

何町何番地 何 誰

右之者ヨリ約定變
貸金其他勸解願出ルニ
付同道可罷出者也

東京裁判所

明治年月日 第一 第二 第三 支廳

何町何番地 何 誰

第十二章 宮内省

第二百七十四條

明治十年九月太政官第六十三號ヲ以官院省使府縣ニ達

宮内省職制及事務章程

宮内省ハ皇室内廷皇族ニ關ル一切ノ事

務ヲ管理スル所トス

職制

卿

第一 本省ノ諸官ヲ統率シ宮禁一切ノ事

務ヲ總判スルヲ掌ル

第二 本省官員及宮中女官奏任以上ノ進

退黜陟ヲ具狀シ其判任以下ハ之ヲ專行ス

大輔

卿ノ職掌ヲ輔ク卿事故アルキハ其事務

ヲ代理スルヲ得

大書記官

權大書記官

少書記官

宮内省

權少書記官

卿ノ命ヲ受ケ庶務ヲ整理シ公文受付ヲ
提掌ス

屬

一等ヨリ十等ニ至ル

一等侍補 三等相當

二等侍補 四等相當

三等侍補 五等相當

常侍規諫闕失ヲ補益スルヲ掌ル

一等侍講 三等相當

二等侍講 四等相當

三等侍講 五等相當

講筵ニ侍シ兼テ御府ノ圖書ヲ掌ル

侍從 七等相當

常侍奉仕ヲ掌ル

侍從試補 九等相當

一等侍醫 二等相當

二等侍醫 三等相當

宮内省

三等侍醫 四等相當

四等侍醫 五等相當

五等侍醫 六等相當

六等侍醫 七等相當

診候醫藥ニ奉仕スルヲ掌ル

醫員 八等相當ヨリ十三等相

當ニ至ル

藥劑調製ヲ掌ル

馭者 八等相當ヨリ十三等相

當ニ至ル

御車調馬飼養ノ事ヲ掌ル

雜掌 十四等相當

机席灑掃官中ノ雜役ヲ掌ル

仕人 等外二等

直丁 等外三等

皇太后宮大夫 三等相當

宮事ヲ總掌ス

亮 四等相當

宮内省

大夫ノ職掌ヲ輔ケ大夫事故アルハ
其事務ヲ代理スルヲ得

第二百七十五條

明治十年九月六日太政官第六
十三號ヲ以官院省使府縣ニ達

宮内省中少丞錄出仕筆生省掌侍從番長藥
劑官藥劑生被廢候事

但侍醫馭者等級及女官尙侍以下從前ノ
通

同省中書記官屬侍補從試補醫員被置官等

左ノ通被定候事

- | | |
|-------|-----|
| 大書記官 | 四等 |
| 權大書記官 | 五等 |
| 少書記官 | 六等 |
| 權少書記官 | 七等 |
| 一等屬 | 八等 |
| 二等屬 | 九等 |
| 三等屬 | 十等 |
| 四等屬 | 十一等 |

宮内省

五等屬	十二等
六等屬	十三等
七等屬	十四等
八等屬	十五等
九等屬	十六等
十等屬	十七等
一等侍補	三等相當
二等侍補	四等相當
三等侍補	五等相當

侍從試補 九等相當

醫員 八等相當 ヨリ十三等相當

ニ至ル

同省中皇太后宮大夫皇太后宮亮被置官等

給左ノ通被定候事

皇太后宮大夫 三等相當 年俸三千圓

皇太后宮亮 四等相當 年俸千八百圓

同省中侍講侍從雜掌仕人直丁女嬬等級在

ノ通被定候事

宮内省

- 一 侍講 三等相當
- 二 侍講 四等相當
- 三 侍講 五等相當
- 侍從 七等相當
- 雜掌 十四等相當
- 仕人 等外二等
- 直丁 等外三等
- 女嬬 十四等相當
- 權女嬬 十五等相當

同省職制及事務章程別冊ノ通被改候事

(別冊前ニ掲ク)

第二百七十六條

明治十年十月四日太政官第七十二號ヲ以官院省使府縣ニ達

宮内省中侍醫官等左ノ通改定候條此旨相

達候事

- 一 侍醫 三等相當
- 二 等同 四等相當
- 三 等同 五等相當

宮内省

四等同 六等相當
五等同 七等相當

第二百七十七條

明治十年十一月十三日太政官
第八十八號ヲ以宮内省ニ達

其省中仕人直丁被廢更ニ左ノ通被置候條
此旨相達候事

一等仕人 等外一等
二等同 同 二等
三等同 同 三等

(同年同月同日官院省使府縣ニ達同文)

第二百七十八條

明治四年十一月
廿二日太政官達

(宮内省中内豎ヲ被置候事)
(但九等官ノ事)

第二百七十九條

明治五年三月廿七日
太政官第百一號布告

宮内省中侍從番長被置候事
但五等官ノ事

宮内省

第二百八十條

明治四年九月廿八日太政官達

(侍從長侍從等級被改職掌左ノ通被定候事)

侍從長 二等

(常侍規諫兼テ侍從ヲ監スルヲ掌ル)

侍從 六等

常侍奉仕ヲ掌ル

(但規諫セント欲セハ長ニ依テ奏上

ス)

第二百八十一條

明治四年九月廿八日太政官達

宮内省中次侍從被廢候事

第二百八十二條

明治五年四月五日太政官第百十號布告

宮内省中内暨内舍人被廢左ノ通被置候事

(雜掌長 十等)

(定員三人)

雜掌 十一等

宮内省

定員三十六人

第二百八十三條

明治六年七月十七日太
政官第二百五十號布告

宮内省中内膳司内匠司調度司被廢候條此

旨布告候事

第二百八十四條

明治六年八月二日太政
官第二百七十八號布告

皇族家令等級左ノ通改定候條此旨布告候

事

内親王家令

官等八等

世襲宮并

一代宮家令

官等九等

第二百八十五條

明治五年三月廿九日
太政官第百六號布告

馭者官等左ノ通被改候事

大馭者

九等

中馭者

十一等

少馭者

十三等

宮内省

第二百八十六條

明治六年五月五日太
政官第四百四十四號達
赤坂離宮ヲ以假 皇居ト被定候事

第一款 式部寮

第二百八十七條

明治十年九月十四日太政官第六
十四號ヲ以官院省使府縣へ達
式部寮自今宮内省へ被屬同寮中判任官以
下出仕等總テ相廢シ更ニ左ノ通被置候條
此旨相達候事

一等屬	八等
二等屬	九等
三等屬	十等
四等屬	十一等
五等屬	十二等
六等屬	十三等
七等屬	十四等
八等屬	十五等
九等屬	十六等

式部寮

十等屬	十七等
大掌典	七等
權大掌典	八等
中掌典	九等
權中掌典	十等
少掌典	十一等
權少掌典	十二等
內掌典	十三等
權內掌典	十四等

大神部	十五等
中神部	十六等
少神部	十七等
大伶人以下當分從前ノ通	

第二百八十八條

明治十年十二月廿八日太政官
第百號ヲ以官院省使府縣へ達

式部寮中大中少掌典神部ノ職員ヲ廢シ更

ニ左ノ職員被置候條此旨相達候事

一等掌典 四等官 月俸百圓

式部寮

二等掌典	五等官	月俸八拾圓
三等掌典	六等官	同 六拾圓
四等掌典	七等官	同 五拾圓
一級掌典補	八等官	同 四拾圓
二級掌典補	九等官	同 卅五圓
三級掌典補	十等官	同 三拾圓
四級掌典補	十一等官	同 廿六圓
五級掌典補	十二等官	同 廿三圓
六級掌典補	十三等官	同 貳拾圓

七級掌典補	十四等官	同 拾七圓
八級掌典補	十五等官	同 拾四圓
九級掌典補	十六等官	同 拾二圓
十級掌典補	十七等官	同 十圓

第二百八十九條

明治十年十一月九日太政官第八十三號ヲ以官院省使府縣へ達

式部寮中大伶人以下被廢更ニ左ノ通被置

候事

但月俸ハ退ヲ可被相定事

式部寮

- 一等伶人 十三等相當
- 二等伶人 十四等相當
- 三等伶人 十五等相當
- 四等伶人 十六等相當
- 五等伶人 十七等相當
- 一等伶員 等外一等相當
- 二等伶員 等外二等相當
- 三等伶員 等外三等相當
- 四等伶員 等外四等相當

第二百九十條

明治十年十一月三十日太政官第八十八號ヲ以官院省使府縣へ達

式部寮中伶人伶員月俸左ノ通被定候事

- 一等伶人 金二十圓
- 二等同 金十七圓
- 三等同 金十四圓
- 四等同 金十一圓
- 五等同 金八圓
- 一等伶員 金六圓

式部寮

二等同

金五圓

三等同

金四圓

四等同

金三圓

右相達候事

第二百九十一條

明治五年三月廿三日太政官第九十二號布告

今般神祇省被廢候ニ付祭事祀典自今式部
寮ニ於テ執行候事

第二百九十二條

明治四年十月十七日太政官達

(神祇省中御巫權巫左ノ通被改候事)

(內掌典)

(權內掌典)

第二百九十三條

明治五年二月廿七日太政官第五十九號布告

(式部寮中大舍人番長被置候事)

(但官等十一等定員四人ノ事)

第二百九十四條

式部寮

明治四年十月
三日太政官達

(自今仕丁等外第二等ノ月給被下候事)

第十三章 開拓使

第二百九十五條

明治八年十二月二十八日太政官第
二百十七號ヲ以院省使廳府縣へ達

開拓使職制并事務章程

開拓使ハ北海道并屬嶋開拓ノ事ヲ管ス
管内分テ四大部トス札幌ヲ本廳トシ函
館根室等へ支廳ヲ置キ別ニ東京出張所

ヲ設ク

制職

長官 一人

第一 本使ノ官員ヲ統率シ使中一切
ノ事務ヲ總判シ所管ノ土地ヲ開拓
シ人民繁殖警備勸業等ノ事ヲ司ル
第二 本使官員奏任ノ進退黜陟ヲ具
狀シ其判任以下ハ之ヲ專行ス

次官 一人

開拓使

長官ノ職掌ヲ輔ケ長官事故アルハ
一切ノ事務ヲ代理スルヲ得

(大判官) 大書記官

(中判官) 權大書記官

(少判官) 少書記官

長官ノ命ヲ受ケ使中ノ事務ヲ糾判シ
公文受付ヲ提掌ス

(幹事) 權少書記官

(權幹事)

長官ノ指揮ヲ受ケ諸局ノ事務ヲ幹理
ス

(十年天政官第二十三號ヲ以大判官
以下被廢更ニ大書記官以下被置)

(大主典) 一等屬

(權大主典) 二等屬

(中主典) 三等屬

(權中主典) 四等屬

(少主典) 五等屬

(權少主典) 六等屬

開拓使

文案ヲ勘署スルヲ掌ル

(史生) 七等屬

公文ヲ繕寫スルヲ掌ル

(使掌) 八等屬

九等屬

十等屬

(十年太政官達第廿三號ヲ以大主典以下概廢更ニ一等屬以下ヲ被置)

事務章程

使中ノ事務大分シテ上下ノ二款ト爲ス

其上款ハ長官ノ意見ヲ具シ上奏裁可ヲ經テ然ル後施行ス其下款ハ長官ノ意見ヲ以テ專行スルヲ得上下二款ノ事務ニ於テハ長官皆其責ニ任ス

上款

第一條 國郡ノ經界ヲ改定スル事

第二條 國郡ノ名稱ヲ定メ或ハ變更スル事

第三條 支廳ヲ廢置スル事

開拓使

- 第四條 驛遞ヲ廢置シ郵便ヲ開設スル事
 - 第五條 租稅ノ法ヲ定メ及ヒ改正スル事
 - 第六條 社寺ヲ廢置スル事
 - 第七條 瀛車道ヲ開キ電線ヲ架スル事
 - 第八條 燈臺及礁標ヲ設立スル事
 - 第九條 官立學校ヲ廢置スル事
 - 第十條 新發明ノ物品專賣ヲ許允スル事
 - 第十一條 本使ノ官員ヲ海外ニ派出スル事
- 以上

下款

- 第十二條 村邑ヲ創置シ或ハ名稱ヲ變更スル事
- 第十三條 戶籍ヲ查定スル事
- 第十四條 道路橋梁ヲ築作修繕スル事
- 第十五條 民業ヲ勸誘シ物産繁殖ノ方法ヲ設ル事
- 第十六條 士民ノ移住ヲ許可シ土地ヲ賣貸スル事

開拓使

第十七條 外國人ヲ傭使シ及給料ヲ増減

スル事

第十八條 鑛山ヲ開採スル事

第十九條 溝渠ヲ開鑿スル事

第二十條 河流ノ填淤ヲ疏浚スル事

第二十一條 人馬船梁ノ賃錢ヲ査定スル

事

第二十二條 種樹園ヲ設立スル事

第二十三條 牧畜ノ方法ヲ設ル事

第二十四條 工場ヲ設立スル事

第二十五條 公私學校廢置ノ事

第二十六條 廳廡ヲ營繕スル事

第二十七條 貸附ノ方法ヲ設ル事

第二十八條 物産販賣ノ法ヲ立ル事

第二十九條 定額金ノ豫算ヲ具狀スル事

第三十條 諸費ヲ計算シ之ヲ公報スル事

第三十一條 使務ノ功程及管内ノ景況諸

政ノ統計ヲ公報スル事

第三十二條 各廳ニ交渉スル事件ハ照會
施行スル事

第三十三條 定則ニ從ヒ移民ニ給與スル
事

第三十四條 豫備倉ヲ設ケ凶荒ヲ救濟ス
ル事

第三十五條 定規ニ照シ窮民ヲ賑恤スル
事

第三十六條 定規ニ照シ褒賞ヲ行フ事

第三十七條 巡查ヲ廢置ス事

第三十八條 需用ノ物品外國ヨリ購入ス
ル事

第三十九條 一切ノ租稅例規ニ照シ處分
スル事

第四十條 定額金ヲ以テ開拓ノ施設緩
急ニ應シ處分スル事

第四十一條 判任以下ノ官員ヲ増減スル事
第四十二條 函館裁判所管ヲ除クノ外懲

役十年以下處刑ノ事

以上

○函館裁判所所管ヲ除クノ外處刑終身懲
役ハ函館裁判所ニ擬律差出シ其死罪ハ
大審院へ差出シ批可ヲ得テ然後決行ス

○使中局ヲ分ツ左ノ如シ

記録局

民事局

會計局

工業局

物産局

學務局

刑法局

第二百九十六條

明治十年一月二十二日太政官第
廿三號ヲ以官院省使府縣へ達

開拓使中准陸軍武官ヲ除クノ外大判官以

下被廢官等左ノ通被定候事

大書記官 四 等

開拓使

權大書記官	五等
少書記官	六等
權少書記官	七等
一等屬	八等
二等屬	九等
三等屬	十等
四等屬	十一等
五等屬	十二等
六等屬	十三等

七等屬	十四等
八等屬	十五等
九等屬	十六等
十等屬	十七等

第二百九十七條

明治十年八月七日太政官第五十六號ヲ以官院省府縣へ達

開拓使准陸軍武官中少尉試補ヲ置キ官等月俸左ノ通被定候條此旨相達候事

准陸軍少尉試補 十等

開拓使

准陸軍少尉月俸 三分一

第二百九十八條

明治十年二月
一日太政官達

開拓使警部以下官等左ノ通被定候事

- 一等警部 八 等
- 二等警部 九 等
- 三等警部 十 等
- 四等警部 十一 等
- 五等警部 十二 等

- 六等警部 十三 等
- 七等警部 十四 等
- 八等警部 十五 等
- 九等警部 十六 等
- 十等警部 十七 等
- 一等巡查 等外一等
- 二等巡查 等外二等
- 三等巡查 等外三等
- 四等巡查 等外四等

開拓使

但巡查月俸ハ拾圓以下ヲ以テ適宜定ムルヲ得

右相達候事

第二百九十九條

明治七年十月三十日太政官第百三十九號ヲ以院省使廳府縣へ達

(開拓使邏卒長以下官等左ノ通改正候條此旨爲心得相達候事)

八等	九等	十等	十一等	十二等
邏卒長		邏卒一等檢官	邏卒二等檢官	邏卒三等檢官

十三等	十四等	十五等
邏卒四等檢官	邏卒五等檢官	邏卒部長

第三百條

明治四年八月七日太政官布告

樺太開拓使北海道開拓使へ合併被仰付候事

開拓使

第十四章 府縣

第三百一條

明治十一年七月廿五日太政官第三十二號ヲ以府縣へ達

明治八年十一月十一日第二十三號達府縣職制并事務章程ヲ廢シ府縣職制別冊ノ通被定候條

此旨相達候事

府縣官職制

府知事 一人 縣令 一人

第一 府知事縣令ハ部内ノ行政事務ヲ總

理シ法律及政府ノ命令ヲ執行セルヲ掌ル

第二 府知事縣令ハ内務卿ノ監督ニ屬ス

ト雖モ各省主任ノ事務ニ就テハ各省卿ノ指揮ヲ受ク

第三 府知事縣令ハ法律及政度ノ命令ヲ執行スル爲ニ要用ナリトスルトキハ其實施ノ順序ヲ設ケテ部内ニ布達シ及其適宜處分ヲ許サレタル事件ニ就テハ規

府縣

則チ設立シテ部内ニ布達スルコトヲ得而シテ發行ノ後チ直チニ各省主務ノ卿ニ報告スヘシ

第四 府知事縣令布達若クハ處分法律若クハ政府ノ命令チ相背キ又ハ權限チ侵シタルトキハ太政大臣若クハ各主務ノ卿ヨリ取消チ命セラル、コアルヘシ

第五 府知事縣令ハ行政事務ニ就キ主務ノ卿ニ稟請シ指揮チ待テ處分スヘキ者

ハ別ニ定ムル規則ニ從フヘシ

第六 府知事縣令ハ地方稅ヲ徵取シテ部内ノ支費ニ充ツルチ得而シテ其豫算決算ヲ具ヘテ內務卿大藏卿ニ報告スルチ要ス其府縣會アル地方ハ之チ會議ニ付スヘシ

第七 府知事縣令ハ屬官ヲ判任進退シ其分課チ命ス

第八 府知事縣令ハ郡長以下郡ノ吏員チ

判任進退シ郡務ヲ指揮監督ス

第九 府知事縣令ハ非常事變アレハ鎮臺若クハ分營ノ將校ニ通議シテ便宜處分スルヲ得

第十 府知事縣令ハ府會縣會ヲ召集シ及其會議ヲ中止スルヲ得

第十一 府知事縣令ハ議案ヲ發シテ府會縣會ニ付シ決議ノ後之ヲ認可シ或ハ認可セサルヲ得

大書記官少書記官(府ハ大小各々一員ヲ置キ縣ハ大小ノ内一人ヲ置ク開港所ノ縣事務繁劇ナルハ上請ニ依リ府ト同シク各々一員ヲ置クヲ許ス)

第一 書記官ハ府知事縣令ヲ輔ケテ部内ノ行政事務ヲ參判スルヲ掌ル

第二 府知事縣令不在ノトキ又ハ事故アルトキハ書記官ハ代理ノ任ヲ受ク

屬一等ヨリ十等ニ至ル屬ハ事ヲ府知

事縣令ニ受ケ庶務ヲ分掌ス

警部(一等ヨリ十等ニ至ル)警部ハ事ヲ
府知事縣令ニ受ケ管内ノ警察ヲ掌ル
郡長(八等相當)一人

第一 郡長ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス一
月八十圓以下各地方ノ便宜ニ從ヒ府知
事縣令之ヲ定ム

第二 郡長ハ該府縣本籍ノ人ヲ以テ之ノ
ニ任ス

第三 郡長ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ法律
命令ヲ郡内ニ施行シ一郡ノ事務ヲ總理
ス

第四 郡長ハ法律命令又ハ規則ニ依テ委
任サル、條件ニ付キ便宜處分シテ後ニ
府知事縣令ニ報告ス

第五 郡長ノ處分不當ナリトスルトキハ
府知事縣令ヨリ取消ヲ命セラル、コ
ルヘシ

第六 郡長ハ町村戸長ヲ監督ス

郡書記十等ヨリ十七等ニ至ル(定員十シ)

郡書記ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス一ケ月二十圓以下府知事縣令ノ適宜ニ定ムル所ニ從フ其撰任進退ハ郡長ノ具狀ニ依リ府知事縣令ノ命スル所ナリ
市街ノ地ニ置ク所ノ區長並書記ハ總

テ郡長郡書記ニ同シ

府縣ノ事務ノ省ニ稟請シテ後ニ處分スヘキ者ハ左ノ件々トス

第一 郡ヲ分テ及數郡ニ一郡長ヲ置キ區ヲ定ムルヲ

第二 郡區經界ノ組替及町村ノ飛地組替ノ事

第三 官給ニ係ル經費ヲ豫算シテ一歲ノ常額ヲ定ムル事

第四 例規ナキ官金出納ノ事

第五 官金管守ノ規則及爲替又ハ預ケノ

方法ヲ設クル事

第六 府縣官舎及監獄ヲ新ニ建築スル事

第七 水旱災ニ罹リシ者ノ租稅延納ヲ許

ス事

第八 水火災ニ罹リ家屋蕩尽スル者租稅

皆濟期限二ヶ月以外延期ノ事

第九 地種變換ノ事

第十 土地ノ變換ニ依リ地租ヲ減スル事

第十一 地價ヲ檢シテ租額ヲ定ムル事

但シ潰地荒地起返シ又ハ開墾地年間

ニ至リ租額ヲ定ムルハ此限ニアラス

第十二 河港道路堤防橋梁開墾等ノ類他

管ニ關涉スルモノ及定額外官費ノ支出

ニ係ル土功ヲ起ス事

第十三 諸貸下金返納期六ヶ月以外ノ延

期ヲ許可シ又ハ之ヲ棄捐スル事

第十四 官林伐木ノ事

但治水修路ノ爲メ三等ノ竹木ヲ用ニ
ルハ此限ニアラス

第十五 官地官宅及其木石ヲ賣却スル事

第十六 酒類ノ稅率ニ用ユル價ヲ定ル事

第十七 官用ノ爲ル土地ヲ買上ル事

第十八 社寺除稅地ノ境域ヲ更正スル事

第十九 官林拂下ノ事

第二十 官民有禁伐林ノ事

第廿一 森林地及竹木官民有ノ區別ヲ定

ムル事

第廿二 鑛山借區境界ノ事

第廿三 鑛山借區稅猶豫并減免ノ事

第廿四 坑法違犯ノ者處分ノ事

第廿五 舊金銀貨及通貨損傷ノモノヲ交

換スル事

第廿六 外國人內地旅行ノ事

第廿七 外國人居留地外住居ノ事

第廿八 居留地々所外國人へ競貸ノ事

第廿九 内外人結婚願ヲ許可スル事

第三十 學校補助金ヲ例規外支消スル事

第卅一 私立學校ヲ停止スル事

第卅二 府知事縣令ノ名ヲ以テ外國人ト

條約ヲ結フ事

第卅三 府知事縣令ノ名ヲ以テ官金弁償

トナルヘキ貸借ノ契約ヲナス事

第卅四 例規ナキ恩典ヲ施行スル事

一 布告布達指令ヲ以テ專任サレタル事

件并ニ定規成例アルノ事件ハ地方官

各自ノ責任ヲ以テ處分シ上司ニ稟ス

ルノ例ニアラス其例規ニ依リ難キ事

情アリテ特別ノ處分ヲ要スルモノニ

限リ理由ヲ具シテ申請スルヲ得

一 諸會社設立願諸鐵開採願圖書版權願

賣藥願等ノ條例規則ニ依リ地方官ヲ

經由スル者ハ府縣掌管ノ事務各省ニ

稟請スルノ類ト同シカラサルヲ以テ
知事令ハ事實ヲ公証スル爲ニ與書若
シハ加印セテ主務ノ省ニ進達スルモ
ノトス

一 嗣後發行スル法律規則中ノ條件府縣
長官ノ上司ニ稟請シテ然ル後處分ス
ヘキモノハ每件明文ヲ掲クヘシ
一事重大ニ屬シ例規ナキモノ及非常ノ
事件ヲ除クノ外凡地方ノ常務前條々

ニ掲載セサル條件ハ地方長官ノ便宜
處分シテ後ニ報告スルヲ許ス

戶長職務ノ概目

- 第一 布告布達ヲ町村内ニ示ス事
- 第二 地租及諸稅ヲ取纏メ上納スル事
- 第三 戶籍ノ事
- 第四 徵兵下調ノ事
- 第五 地所建物船舶質入書入并ニ賣買ニ
與書加印ノ事

第六 地券臺帳ノ事

第七 迷子捨兒及ヒ行旅病人變死人其他
事變アルトキハ警察署ニ報知ノ事

第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫
ノ者ヲ具狀スル事

第九 孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル
事

第十 町村ノ幼童就學勸誘ノ事

第十一 町村ノ人民ノ印影簿ヲ整置スル

事

第十二 諸帳簿保存管守ノ事

第十三 官費府縣費ニ係ル河港道路堤防
橋梁其他修繕保存スヘキ物ニ就キ利害
ヲ具狀スル事

右ノ外府知事縣令又ハ郡區長ヨリ命令ス
ル所ノ事務ハ規則又ハ命令ニ依リテ從事
スヘキ事

其他町村限リ道路橋梁惡水ノ修繕掃除等

凡ソ協議費ヲ以テ支辨スル事件ヲ幹理スルハ此ニ掲クル所ノ限ニアラス

地方ノ事務郡區長ニ於テ處分シテ後知事令ニ報告スルヲ得ルモノ左ノ件々トス

第一 徵稅並地方稅徵收及ヒ不納者處分ノ事

第二 徵兵取調ノ事

第三 身代限財產取扱ノ事

第四 逃亡死亡絕家ノ財產處分ノ事

第五 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事

第六 電線直路田畑水利ニ障礙アル官有

樹木ヲ伐採スル事

第七 河岸地借地檢査ノ事

第八 職遊獵願威銃願ノ事

第九 印紙野紙賣捌願ノ事

第十 小學校資金ノ事

右ノ外府知事縣令ヨリ特ニ委任スル條件

第三百二條

明治十一年十月廿三日太政官第
四十四號ヲ以官省院使府縣へ達

東京府下區長七等官相當ト被改候事

(以下大藏省職制及章程ノ部へ掲ク)

第三百三條

明治十一年十月廿五日太政
官第四十五號ヲ以府縣へ達

本年七月第三十二號達府縣官職制中左ノ

通改定候條此旨相達候事

郡書記

(十等ヨリ十七等ニ至ル)定員ナシ郡書
記ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス其額ハ
府知事縣令ノ適宜ニ定ムル所ニ從フ
其撰任進退ハ郡長ノ具狀ニ依リ府知
事縣令ノ命スル所タリ

第三百四條

明治十一年十一月廿一日太政官第
四十八號ヲ以官省院使府縣へ達

勅任ノ府知事縣令ハ三等官ニ被定候條此
旨相達候事

府縣

第三百五條

明治十一年十二月十六日太政官第五十三號ヲ以府縣へ達

戸長職務ニ勉勵スル者ハ一ヶ月給料ノ高キ超へサル金額ヲ以テ賞賜スルヲ得但シ其費用ハ地方税ヨリ支出スヘキモノトス此旨相達候事

第三百六條

明治十年一月十六日太政官第六號ヲ以府縣へ達

府知事權知事等級左ノ通被定候事

知事 四 等

權知事 五 等

府知事權知事縣令權令月俸左ノ通被定候事

府知事 月俸 二百五十圓

權知事 全 二百圓

縣 令 全 二百五十圓

權 令 全 二百圓

府縣參事以下被廢等給左ノ通被定候事

府縣

大書記官 六等月俸 百圓
少書記官 七等全 八十圓

以上奏上

一等屬 八等月俸 六十圓
二等屬 九等全 五十圓
三等屬 十等全 四十五圓
四等屬 十一等全 四十圓
五等屬 十二等全 三十五圓
六等屬 十三等全 三十圓

七等屬 十四等全 二十五圓
八等屬 十五等全 二十圓
九等屬 十六等全 十五圓
十等屬 十七等全 十二圓
以上判任

等外 一等全 十圓
等外 二等全 八圓
等外 三等全 七圓
等外 四等全 六圓

府縣

右相達候事

第三百七條

明治十一年一月十一日
太政官第一號布告

静岡縣管下伊豆國八丈島自今東京府管轄

被 仰付候條此旨布告候事

第三百八條

明治十二年六月二十五日內務省乙第廿九號ヲ以府縣へ達

明治十一年太政官第三十二號達府縣ノ事

務主務省ニ稟請スヘキ條款第九第十五ニ

關係アル土地處分ノ内左ノ件々委任候條
其府縣限リ處分ノ後當省へ可届出此旨相
達候事

- 一 市街宅地接續コテ一區域ノ宅地ヲ爲ス
- ニ 足ラサル間地ヲ賣却スル事
- 一 耕地宅地ニ非ラサル民有地ヲ共葬墓地
- ニ 撰定スル事
- 一 既成開墾ニ係ル地所ヲ例規ニ照シ素地
- 相當代價ヲ以テ拂下ル事

府縣

但河川ノ附寄洲及ヒ森林ニ係ル地所

ハ此限ニアラス

一報時鐘鼓アル敷地ヲ例規ニ依リ拂下ル
事

一官有ノ社寺境内ヲ例規ニ依リ民有地ニ

下渡ス事

一廢合寺院跡地ヲ例規ニ依リ處分スル事

一公立ノ中小學校ヲ建設スルニ臨ミ其敷

地ヲ例規ニ依リ附與スル事

一民有地ノ用惡水路溜池敷井溝敷地與廢
處分スル事

但シ河身ニ關係アル用惡水路ハ此限

ニアラス

一社寺境外上地ヲ例規ニ依リ拂下ル事

但森林ニ係ル地所ハ此限ニアラス

一社寺境外上地ノ分其所有者ヲ例規ニ依

リテ定ムル事

但森林ニ係ル地所ハ此限ニアラス

一社寺境外ニ屬スル舊神官僧侶舊修驗從來ノ居住地ヲ例規ニ依リ處分スル事

第三百九條

明治十二年三月廿四日內務省乙第十三號ヲ以府縣ニ達

明治十一年三十二號公達ニ付左ノ條次處分方心得ノ爲メ相達候事

一官林貸渡ハ官林伐採土石賣却ニ準シ稟

請スヘシ

一部分木拂下ハ官林ニ準シ稟請スヘシ

一郡長職務中ニ掲載アル官有樹木ヲ伐採スルハ電線ヲ犯シ道路ヲ妨ケ田畑上ニ横出シ堤脚ヲ動撼スルノ類總テ直接ノ障害ヲ爲スモノニ限ルヘシ

第三百十條

明治四年正月二十日太政官布告

(兼テ被仰出候縣官定員ノ内自今權大參事ヲ被置候事)

但正權大參事互置定員ヲ不可踰事

第三百十一條

明治四年七月十四日太政官布告

藩ヲ廢シ縣ヲ被置候事

第三百十二條

明治四年七月廿四日太政官布告

今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候ニ付テハ租税ノ儀一般ノ法則ニ可引直ノ處因襲ノ久キ一時ニ引直候テハ却テ民情ニ悖リ候儀モ可有之ニ付當未年ハ悉皆舊貫ニ仍リ可申尤

モ是迄取扱來リ候方法并雜税ノ名義區別等詳細取調來ル申年三月中迄ニ可伺出候事

第三百十三條

明治四年十月七日太政官達

(開港開市場有之府縣左ノ通譯官被置候事) 但東京大坂新潟宿館ハ追テ被定候事

- (一等譯官) 八等
- (二等同) 九等

府縣

- (三等同) 十等
- (四等同) 十一等
- (五等同) 十二等
- (六等同) 十三等
- (七等同) 十四等

第三百十四條

明治五年八月廿三日太政官
第二百三十二號布告

佐賀縣管轄對馬國一圓今般長崎縣へ管轄
替被 仰付候條此旨相達候事

第三百十五條

明治七年五月十九日
太政官第六十六號達

各地方學區取締身分ノ儀自今十二等ヨリ
十五等マテ適宜ノ官等ニ准シ可取扱俸給
ノ儀ハ學制第十一章ノ通可相心得尤等級
并ニ俸給共取調文部省へ可届出此旨相達
候事

第三百十六條

府縣

但區戶長ニテ兼勤候モ勝手タルヘキ事

明治八年三月三十日太政官
第四十二號ヲ以府縣へ達

本年二月二十五號ヲ以テ府縣等外五六等
被廢候儀ト可心得旨相達候處有ハ現今迄
設置ノ向ハ來四月十五日限り可相廢且等
外四等以上月俸引直ノ儀來四月十六日ヨ
リ改正可致此旨更ニ相達候事

但此達同日迄ニ到着不致向ハ到着次第
改正可致尤一時施行シ難キニ於テハ漸
次施行ノ見込ヲ立テ内務省へ可申出事

第一款 府縣警部職制

第三百十七條

明治十一年七月廿五日太政官第三
十二號ヲ以東京府ヲ除ク府縣へ達
(府縣職制中拔萃)

警部

一等ヨリ十等ニ至ル

警部ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ管内ノ警察
ヲ掌ル

第三百十八條

府縣警部職制

明治十年一月廿日太政官第十一號ヲ以東京府ヲ除ク府縣へ達

府縣警部以下官等左之通被定候條此旨相

達候事

- 一等警部 八 等
- 二等警部 九 等
- 三等警部 十 等
- 四等警部 十一 等
- 五等警部 十二 等
- 六等警部 十三 等

- 七等警部 十四 等
 - 八等警部 十五 等
 - 九等警部 十六 等
 - 十等警部 十七 等
 - 一等巡查 等外一等
 - 二等巡查 同 二等
 - 三等巡查 同 三等
 - 四等巡查 同 四等
- 巡查ノ月俸八十圓以下ヲ以テ其府縣

府縣警部職制

適宜ニ定ムルヲ得

第三百十九條

明治九年五月十八日內
務省乙第六十四號達

警部巡查ノ外等外吏ヲシテ警察ニ従事セ
シメ又ハ警察出張所屯所等へ派遣シ同事
務爲取扱候向有之處自今可相廢候此旨相
達候事

太政官 諸官衙廢置沿革要略

明治元年
二月

三職八局ヲ被定

明治元年
三月

民政掛ヲ元町奉行西役所へ置民政役所ト
唱フ

明治元年
三月

神祇官御再興神社神主等同官附屬ノ件

明治元年
四月

諸官衙廢置沿革要略

溟華へ官代ヲ被置

明治元年四月

太政官代ヲ禁中へ被移

明治元年四月

三職八局ヲ被廢新ニ官制ヲ定ム

明治元年四月

元守護職屋敷ヲ以テ陸軍局ト被定

明治元年五月

軍務官ヲ陸軍局へ被移

明治元年七月

東京へ鎮將府ヲ被置

明治元年七月

刑法官ヲ關院殿へ引移ノ儀

明治元年七月

東京鎮將府ヲ被建置駿河以東十三ヶ國ヲ

管轄セシム

明治元年七月

大總督宮鎮臺被免並三條右大臣鎮將御下

命及鎮臺府ノ稱被廢

明治元年八月

江戶城へ鎮將府ヲ被置民政裁判所ヲ會計

局ト被改ノ儀

明治元年八月

督典侍從三位宣下三局ト被稱ノ儀

明治元年八月

大學寮代梶井宮へ移轉不遠御開校ノ儀

明治元年九月

神祇官元學習院へ被移ノ儀

明治元年九月

議政官ヲ被廢別ニ議事取調局設置可有之ノ儀

明治元年十月

會計官京都府へ被移ノ儀

明治元年十月

刑法官轉移ノ儀

諸官衙廢置沿革要略

明治元年十月

鎮將府被廢ノ儀

明治元年十月

東京へ五官出張所御取建ノ儀

明治元年十月

辦事分課

明治元年十一月

治河使ヲ設ケ天下ノ水利ヲ起スノ儀

明治元年十一月

議事休裁取調所御取建公議人ヲ管轄ノ儀

儀

明治元年十二月

敦賀表出張軍務官引拂ノ儀

明治元年十二月

公議所東京舊姫路邸ヲ以被定來春ヨリ開

議等ノ儀

明治元年十二月

東京鎮砲洲外國事務局以後運上所ト改唱

諸官衙廢置沿革要略

ノ儀

明治二年正月十八日

參議辨官分課被定

明治二年正月

會計官禁中へ引移ノ儀

明治二年二月

驛遞司轉移ノ儀

明治二年二月三日

造幣局設置ニ付貨幣司被廢止等ノ儀

明治二年三月

商法司被廢ノ儀

明治二年四月八日

民部官ヲ被置并向後六官へ關係ノ事件ハ

其官々へ可差出ノ儀

明治二年四月

姑シ議政官被廢別ニ議事ヲ制シ取調局ヲ

被開旨御布令ノ處從前政體書ノ通り可必

得ノ儀

明治二年四月

議事取調局被廢制度寮被置ノ儀

明治二年四月

待詔局馬場先御門内へ移轉ノ儀

明治二年四月

待詔局再轉移ノ儀

明治二年五月十三日

公選ノ法ヲ被設ニ付詔勅并上下議局被開
議政官被廢ノ儀

明治二年五月

通商司向後會計官へ被屬ノ儀

明治二年五月

彈正臺被置ノ儀

明治二年七月八日

辨事傳達所向後辨官傳達所ト被稱ノ儀

明治二年七月八日

行政官支配向後辨官支配ト可稱等ノ儀

明治二年七月

諸官衙廢置沿革要略

留主彈正臺被置ノ儀

明治二年七月八日

濱殿石室ヲ延邊館ト被號ノ儀

明治二年七月

公議所ヲ集議院ト改稱ノ儀

明治二年八月

兵部省元所司代屋敷ニ轉移ノ儀

明治二年八月五日

三陸而羽磐城按察府岩代國白石ニ新置ノ

儀

明治二年九月八日

留守彈正臺菊亭家ニ被設ノ儀

明治二年八月

岩代國巡察使被廢ノ儀

明治二年九月十七日

神祇官中諸陵寮被廢ノ儀

明治二年九月

京都辨官傳達所向後留守官傳達所ト可稱

諸官衙廢置沿革要略

ノ儀

明治二年九月

留守官中ニ被置候辨官吏官被廢等ノ儀

明治二年九月

留守刑部省被廢ノ儀

明治二年十月

京都府元守護職屋敷へ引移ノ儀

明治二年十一月

大藏省京都府中へ引移ノ儀

明治二年十一月

刑部省中迷部司ヲ被置ノ儀

明治二年十二月

京都兵部省被廢ノ儀

明治二年十二月

大學校ヲ大學ト改稱開成所ヲ南校醫學校

ヲ東校ト可稱等ノ儀

明治二年十二月

留守官京都府へ合併ノ儀

諸官衙廢置沿革要略

明治三年一月廿七日

留守官京都へ轉移等ノ儀

明治三年二月

京都府出張大藏省被廢ノ儀

明治三年五月

外務省中文書司被置ノ儀

明治三年五月

留守官宮中へ引移ノ儀

明治三年六月一日

留守官禁中へ引移日時ノ儀

明治三年六月廿日

越後國按察使被廢ノ儀

明治三年七月

民部大藏兩省分省ノ儀

明治三年七月

大藏省中ニ營繕司ヲ被置ノ儀

明治三年九月

神祇官近衛家邸へ引移ノ儀

明治三年閏十月十九日

民部大藏兩省城內へ被移ノ儀

明治三年閏十月十九日

民部省中寺院寮地理局驛遞司土木司庶務司右寮司ト被定ノ儀

明治三年閏十月十九日

工部省中勸工及鑛山製鍊燈明臺鐵道電信機等被置ノ儀

明治三年十一月四日

築地海軍操練所ヲ海軍兵學寮大坂兵學寮

ヲ陸軍兵學寮ト改稱ノ儀

明治三年十一月七日

太政官中舍人雅樂兩局並宮內省中內舍人ヲ被置

明治三年十一月

京都驛遞司出張所引移シノ儀

明治三年十二月

鑛山司被止鑛山掛リヲ以テ御用取扱ノ儀

諸官衙廢置沿革要略

明治四年七月十四日

辨官被廢ノ儀

明治四年七月十八日

大學ヲ廢シ文部省ヲ被置ノ儀

明治四年七月廿七日

自今民部省被廢ノ儀

明治四年七月廿七日

大藏省中監督司用度司租稅司ヲ被廢左ノ之通租稅寮勸業司統計司紙幣司戶籍司驛

遞司被置ノ儀

明治四年七月廿七日

工部省中土木司被置ノ儀

明治四年八月七日

樺太開拓使北海道開拓使ニ合併ノ儀

明治四年八月八日

神祇官神祇省ト被改ノ儀

明治四年八月十日

大藏省中察司被置ノ儀

諸官衙廢置沿革要略

明治四年八月十四日

工部省中察司被置ノ儀

明治四年八月廿三日

大藏省中勸業寮自今勸農寮ト被定ノ儀

明治四年八月廿三日

留守官被廢ノ儀

明治四年九月五日

今般用度司被廢諸社御祭典ノ調進物總テ

神祇省ニ御委任ノ儀

明治四年十一月五日

外務省中左ノ通總領事以下被置官等被定

ノ儀

明治四年三月七日

馬場先御門内民部省出張所驛遞司三月十

日四日市郵便役所ニ被移ノ儀

明治四年三月十四日

京都ニ雅樂局出張所被置ノ儀

明治四年三月廿八日

諸官衙廢置沿革要略

京都府津藩以下七藩奈良縣以下五縣工諸
陵寮京都出張所引拂ノ儀被 仰出候ニ付
諸國山陵取締ノ儀

明治四年
四月九日

長崎製鐵所自今工部省管轄被 仰付ノ儀

明治四年
四月九日

横須賀長崎製鐵所ハ造船所横濱製鐵所ハ
製作所ト改稱ノ儀

明治四年五
月廿五日 府藩縣ニ

大坂以西驛々爲取締當六月ヨリ大坂表ニ
驛遞司出張所被設ノ儀

明治四年
七月五日

兵部省中軍醫寮被置ノ儀

明治四年
七月五日

大藏省中通商司被廢ノ儀

明治四年
七月九日

自今刑部省彈正臺被廢司法省被置ノ儀

明治
五年 第十八號

諸官衙廢置沿革要略

驛遞寮京都出張所被廢ノ儀

明治五年 第六十二號

兵部省被廢陸軍海軍兩省被置ノ儀

明治五年 第六十五號

元兵部省ニ陸軍省ヲ置キ筑地海軍所ニ海軍省被置ノ儀

明治五年 第八十二號

神祇省ヲ廢シ教部省ヲ被置ノ儀

明治五年 第八十六號

御親兵ヲ廢シ近衛兵ヲ被置ノ儀

明治五年 第九十二號

今般神祇省被廢候ニ付祭事祭典式部寮ニ於テ執行ノ儀

明治五年 第九十九號

教部省當分於官中事務取扱候處明後廿七

日元神祇省ニ移轉ノ儀

明治五年 第百拾八號

陸軍糾問司被廢陸軍裁判所被置ノ儀

諸官衙廢置沿革要略

明治五年 第三百三十六號

音樂歌舞自今教部省管轄タルヘキノ儀

明治五年 第三百八十四號

大藏省中驛遞寮自今二等寮ニ被定ノ儀

明治五年 第二百十五號

自今元津藩邸へ文部省被置ノ儀

明治五年 第二百四十三號

司法省中警保寮被置官等左ノ通ノ儀

明治五年 第二百六十二號

文部省中編輯寮被廢督學被置ノ儀

明治五年 第二百八十號

辰ノ口元分析所へ印書局被置ノ儀

明治五年 第三百三號

大藏省中勸農寮正算司被廢ノ儀

明治五年 第三百十三號

造船製銃ノ兩寮ヲ廢シ製作寮へ被合

明治五年 第三百廿二號

文部教部兩省合併被 仰出ノ儀

諸官衙廢置沿革要略

明治六年 第四百十三號

太政官廳炎上ニ付馬場先門内元教部省ヲ以テ官代ト被定ノ儀

明治六年 第四百七十二號

陸軍省中軍醫寮被廢ノ儀

明治六年 第四百廿八號

集議院被廢同院ノ事務左院ニ於テ取扱ノ儀

明治六年 第四百四十八號

大藏省中國債寮被置二等寮ト被定

明治六年 第二百五十號

宮内省内膳内匠調度ノ三司被廢ノ儀

明治六年 第三百五十八號

大藏省記録寮自今二等寮ニ被定ノ儀

明治六年 第三百七十五號

内務省被置ノ儀

明治六年 第三百九十號

工部省中勘工寮ヲ廢シ同寮ノ事務製作寮

諸官衙廢置沿革要略

ニテ取扱ノ儀

明治七年 第一號

內務省中寮司被置
勸業警保一等戶籍驛遞
土木地理二等測量一等
司

明治七年 第十號

警視廳元津山邸ニ被置ノ儀

明治七年 第一號院省使府縣ニ

內務省外務省ノ次ニ被列ノ儀

明治七年 第一百十二號院省使府縣ニ

內務省中測量司被廢地理寮ニ量地課ヲ置
キ同寮中ニ合併ノ儀

明治八年 第十二號

陸軍造兵武庫兩司被廢ノ儀

明治八年 第五十八號

別紙詔書ノ通被 仰出大審院元老院ヲ被
置ノ儀

明治八年 第五十九號

左右院被廢大審院元老院被置式部寮宮內

諸官衙廢置沿革要略

省中へ被附ノ儀

明治八年 第六十七號

元老院ノ儀ハ、太政官代中元左院へ被置ノ儀

明治八年 第七十一號

明法寮被廢ノ儀

明治八年 第七十五號

海軍省武庫造兵ノ兩司被廢ノ儀

明治八年 第七十七號

陸軍省中兵學寮被廢ノ儀

明治八年 第八十號

大審院當分ノ内明法寮跡へ被置ノ儀

明治八年 第九十二號

今般東京大坂長崎福島上等裁判所被置ノ儀

明治八年 第百廿七號

福島上等裁判所宮城へ被移ノ儀

明治八年 第百四十七號

内務省中圖書寮被置ノ儀